

東海大学大学院 2016 年 修士論文
ハイブリッドロケット液体酸素
気化に関する研究

指導教員：

東海大学大学院工学研究科
航空宇宙学専攻

学生番号：4bmjm020 三島源生

平成 27 年 12 月 4 日

概要

考え中

目次

第1章	序論	1
1.1	背景	1
1.1.1	ロケット業界と現状	1
1.1.2	ハイブリッドロケットの特徴	2
1.2	本研究の目的	2
1.3	本論文の構成	2
第2章		3
2.1	実験方法	3
2.1.1	実験1	3
2.1.2	ハイブリッドロケット実験2	3
2.2	本研究の目的	3
2.3	本論文の構成	3

表 目 次

目 次

第1章 序論

本章では、まず研究の背景として、現在のロケット業界とハイブリッドロケットとの関係性について説明する。

1.1 背景

本研究の背景として、ハイブリッドロケットの定義やそれがどのような特徴を有しているのかについて、及びハイブリッドロケットの設計における課題について説明する。

1.1.1 ロケット業界と現状

近年、世界中で宇宙輸送技術は目覚ましい発展を遂げている。日本では2013年に新たな国産ロケット「イプシロンロケット」を開発し、打ち上げに成功した。また新たな基幹ロケットとなる「H3 ロケット」の開発も進んでおり、2020年に打ち上げを計画している。アメリカではスペースシャトルの退役後、低軌道国際宇宙ステーションへの物資補給用を民間企業が筆頭となっている。また再使用ロケットの導入に向けた実験や宇宙観光を目的とした宇宙ビジネスの構想が活発になっている。インドでも独自で高軌道ロケットの開発に成功し、宇宙探査機を搭載したロケットの打ち上げに成功した。

しかし、2014-15年に数多くのロケットの打ち上げ失敗も起こっている。

-
-
-
-

1.1.2 ハイブリッドロケットの特徴

次世代の宇宙推進システムとして、現在ハイブリッドロケット推進が注目されている。

-
-
-
-

1.2 本研究の目的

本研究の目的はjj

1.3 本論文の構成

第1章では、本論文の背景と目的について述べた。第2章ではj j

第2章

この章では実験手法と計測項目について説明する。

2.1 実験方法

2.1.1 実験 1

次世代の宇宙推進システムとして、現在ハイブリッドロケット推進が注目されている。

2.1.2 ハイブリッドロケット実験 2

次世代の宇宙推進システムとして、現在ハイブリッドロケット推進が注目されている。

2.2 本研究の目的

本研究の目的はjj

2.3 本論文の構成

第 1 章では、本論文の背景と目的について述べた。第 2 章では j j